突哨山運営協議会　２０２０年度　第１回協議会

２０２０年7月２７（月）　１８：３０～　職員会館

出席者　出羽寛　黒川博義　塩田惇　舟橋健　尾崎良司　澤田勇　寺島一男
木村宣昭　工藤和彦　武井七海　山本牧
旭川市公園みどり課　笹川主査
事務局　中村直人

出羽　二人の方が新しく運営委員になっていただきました。高橋さんと武井さんです。高橋さんは今日欠席ですが、竹井さんが来られていますので簡単に挨拶お願いいたします。
武井　武井七海と申します。木村さんの紹介で加入させていただきました。比布町に住んでいます。よろしくお願いいたします。
出羽　出席者の方は名前だけ自己紹介お願いします。
全員　各自自己紹介

１．報告事項

① 活動報告（主催・共催）と写真. ※主催等の表記のないのは「運営協議会」が実施

・５月３０日　ヒグマ出没による一時閉鎖

・６月１０日　カタクリ広場草刈り（突哨山と身近な自然を考える会）
＜出羽、黒川、桐、澤田、中村＞

・ ６月１０日　突哨山駐車場草刈り（もりねっと）

・ ６月１１～１７日　遊歩道草刈り（もりねっと）

・ ６月１７日　ヒグマ調査（もりねっと・公園みどり課）

扇の沢入口→扇の沢 B 地点で足跡確認→ぴぴの路入口 F 地点で丸太のアリを確認→頂上→カタクリ広場

- ６月１８日　一時閉鎖解除（もりねっと）

- ７月　６日　近二小１・２年突哨山活動（もりねっと）東鷹栖１４線山林
  テーマ「森林の昆虫」虫ビンゴ、虫の飼育

- ７月　８日　近二小３・４年突哨山活動（もりねっと）東鷹栖１４線山林
  テーマ「森の植物・外来種と在来種」植物マップづくり

- ７月　８日　近二小５・６年突哨山活動（もりねっと）東鷹栖１４線山林
  テーマ「森林の特徴・保全と利用」

- ７月 16 日　東大奥崎氏　ミミズ採集調査　木もれび分岐から南折り返し付近
  写真左上　表面の落ち葉を取り除きミミズの有無を確認する。
  写真右上　５０センチ四方の区画で深さ２０センチまでスコップを入れる。小石や木の根にあたり深くまでスコップが入りにくい。
  写真左下　切り取った土をめくりミミズを探す。
  写真右下　一般的な広葉樹林に比べミミズの数が少ない印象とのこと。見つかったミミズの種類はツリミミズのみ。合計５箇所実施し２０匹前後捕獲した。

- ７月１９日　外来植物抜き取り作業（旭川外来植物研究会）
  ＜協議会４名、身近な自然を考える会３名、ボランティア３名（北の森づくり専門学院学生）、もりねっと１名＞

  突哨山口から頂上まで、扇の沢ルート、ぴぴの路入り口付近の３グループに分かれ、特に外来植物が多い場所を中心に作業を行った。
  実施時間は午前９時から１２時まで。

  突哨山口から頂上までのルートでは数は少なかったが、フランスギクやヒメジョオンなどが稀に見られた。
  扇の沢ルートではオオハンゴンソウを中心に抜き取った。
  ぴぴの路入口付近では昨年オオハンゴンソウが多かった場所で、今年はオオアワダチソウが代わりに密生していた。昨年の抜き取り作業が一定の効果を上げていると思われる。

中村　尾崎先生これについて補足ありましたらお願いします。
尾崎　以前外来種抜き取りの事務局を担当されていた今年９１歳になられる方がいらっしゃいました。その方曰く毎年続けることが大事だということです。オオハンゴンソウは茎と地下茎と根に分かれるんですが、この地下茎をしっかり掘っても、きちんと取りきれていなければまた生えてくる。若い芽が種から発芽したように見えるが、残った地下茎から発芽している。効果的な除去方法は皆さんと検討しなければならない。これ以

上増やさないように、皆さんからアドバイスをもらいながら続けて行きたいと思います。

中村　オオハンゴンソウの種ができる前の７月中旬を目処に来年も実施したいと考えています。

・7 月 20 日　ホタル観察

中村　毎年黒川さんがホタルの観察調査を実施していらっしゃるので、今年の状況を報告していただいてよろしいでしょうか。

黒川　突哨山のホタルは２０年ほど前から見つかっているんですが、マスコミに出さないようにしています。自然を保護するためには許される範囲だと思っています。昔は家の周りにたくさんいたんですが、道路の舗装がされて、用排水路がコンクリートになってしまったら絶滅してしまいました。

どじょうがいなくなってみみずもいなくなった頃からホタルもいなくなってしまった。突哨山とい身近な自然を考える会ができた頃、子供たちを中心にしたザリガニ探偵団というのがあったんです。昆虫学者の方がリーダーだったんですが、その方は男山自然公園にホタルがいるのを確認していました。それで突哨山にもホタルがいるはずだということで沢の調査をしたんです。１５本ぐらい沢を調査したんですが、ホタルは見つかりませんでした。もう一度何本かの沢を見ようと暗くなってから山に入りました。最初に行ったのは工藤さんの裏の３本の沢でした。池もあったので一番可能性があると思って行きましたが、ホタルは見つかりませんでした。リーダーの方が以前ザリガニの調査をしたときにカワニナがいたということを思い出してくれました。カワニナはホタルの餌になる小さな貝です。それが扇の沢でした。そして扇の沢に行ったら３匹光っていました。それから毎年調査をしています。今まで２５匹から３５匹ぐらい確認された年がだいぶ長い間続きました。２０１４年か２０１５年でしたがびっくりすることが起きました。１００匹を超えるホタルが光っていたことが１年だけありました。仲間を誘うこともできず、カメラにも写せませんでしたが、その後２０１６年に台風が来ましたね。扇の沢も大洪水になってしまい、水が堤防を超えてしまいました。その年ホタルを見ることはできませんでした。寂しい思いでしたが、その次の年には３匹のホタルを見ることができました。その次の年は４匹５匹になりましたが、その後増えることはありませんでした。２０２０年の実数をお伝えしたいと思います。一番最初に見つけたのは７月８日の２匹です。２匹というのは同時に光ったホタルの数を言っています。ホタルは動くので時間差で別の場所で光ったものは数えていません。最低限の数ということになります。毎日観察に行っているわけではありませんが、７月１５日は４匹プラスαでした。プラスαというのは確かに光っているが同時には光らなかったものです。１６日は６匹プラスαでした。２０日は中村さんと一緒に行きました。私のカウントでは４匹プラスαでしたが、中村さんは１０匹ぐらいいそうだと言っていました。実際そのぐらいの感じはしますが、きちんとカウントはできたのは同時に光った４匹でした。その後も観察は続けていますが、昨日は６匹プラスαでした。これが今年の扇の沢です。扇の沢の下流に農業用水路が走っていますが、その用水路の堤防から沢の上手の池です。２０１９年はどうだったのかと言うと、一番最初に確認できたのは７月７日の３匹でした。それがなかなか増えずに１７日に５匹。一番増えたのは２１日に１２匹。２７日には３匹になり、３０日にはゼロでした。寂しいホタルの光ですが、皆さんもどうぞ観察にいらしてみてください。今日あたりも３匹ぐらいは光っていると思います。今年もゼロになるまで観察は続けたいと思います。

出羽　ホタルは止まって光るのではなく飛んで光るんですか。

黒川　飛んで光る方が多いです。

出羽　突哨山と身近な自然を考える会ができた年だと思いますが、カタクリ広場

の用水路のあたりにいると言うのは聞いたことがあります。

黒川　駐車場の側溝にいましたね。それは見た記憶があります。

中村　黒川さんと扇の沢でホタルを見た後、近くの小さな川など見て歩きましたがホタルはいませんでした。扇の沢は貴重な場所だと思います。

出羽　今日、神楽公民館で公園の整備に関する会議がありましたが、神楽丘公園の崖下のミズバショウがある場所でホタルを見たという情報がありました。はっきり確認されたわけではありませんが。

② ヒグマ状況報告

ヒグマの報告については添付資料１参照

山本　工藤さんのところは出ませんか。

工藤（和）　見たことはないです。

出羽　工藤さんの家の裏で初めの頃一回だけ確認されています。

山本　片山牧場にも一回出たことがあります。

出羽　ザゼンソウ食痕は扇の沢ですか。

山本　扇の沢の去年カメラに写った登り口の沢のところです。

工藤（和）　個体は１頭だけだったんですか。

山本　今回はこの１頭だけです。

出羽　嵐山にも今年は展望台付近で目撃されて、今は閉鎖中です。３１日ぐらいに閉鎖を解除する予定です。

笹川　そうですね。３１日にもう一度確認して、痕跡がなければ閉鎖を解除する方向です。

出羽　特に嵐山は、どうも常駐するような傾向にあるような気がします。奥も含めて常にいると考えた方がいいと思います。突哨山はまだそこまでではないかもしれません。だんだんそういう傾向にあって、これから里山裏山のくまとどう付き合っていくか考えなければならないと思います。

山本　突哨山の場合はエリアが細長いので。閉鎖している間に草刈りをしました。２人か３人でそれぞれ分かれて作業をしましたが、遠くで草刈機の音が聞こえます。草刈りをするというのは熊にとって相当嫌な感じだと思います。クローズにして静かにしてしまうと熊にとっては居心地がいいと思われてしまいます。草刈りをしたり調査に入るというのは悪くはないのかなと思います。

工藤（和）　男山自然公園の方に行っているということはないですか。

山本　今年は今のところありません。あそこよりも先に行くと石狩川に入り込んで、川沿いを移動して末広あたりに出てくる可能性もあります。

出羽　昔比布の市街地に出ています。

尾崎　嵐山は一度熊が出て、最近また出て閉鎖になりましたね。熊が出て公園を閉鎖するしないというのは公園みどり課が公園管理なのでやると思いますが、ここに環境部は参加しないんですか。

山本　旭川市の仕組みでは、熊全般は環境部の所管です。公園管理という意味では土木部の所管になります。

尾崎　先日環境部総務課に行った時に、西神楽で熊が出て、総務課から４名ぐらい現地を見に行っていました。突哨山に熊が出た場合、管理者のもりねっとが最初に見つけたら環境部総務課に届けなければいけないんじゃないでしょうか。

山本　環境部とは連携をとって連絡をしています。

尾崎　資料には載っていないですね。

山本　環境部は安全なのか駆除をするのかステージの判断なので。例えば西神楽に熊が出ているのも突哨山に熊が出ているのも環境部としては同じなんです。駆除するかどうかの判断は環境部でします。土木部は公園としての安全性を考えています。環境部は熊が人里に出てきて悪さをするかしないかを考えています。土木部ともりねっとが相談するレベルはより安全に振った方だと思います。環境部と連絡は取っていますが、獲らなきゃいけないよねということになると環境部を経由して駆除申請をすることになると思います。

尾崎　昨年か一昨年に熊が出た時にも意見を言ったところです。二点目として、熊はミズバショウを食べますが、ザゼンソウも食べますか。

山本　ミズバショウは春先に根っこを掘りますが、この時期は上の葉っぱを食べるのはほとんどザゼンソウに限られていて、ミズバショウはほとんど食べません。

尾崎　資料にあるのは熊が食べたらしいということですか。

山本　歯の跡や食いちぎり方でほぼ熊であろうと考えられます。他に考えられるのはネズミかエゾシカですが、エゾシカであれば足跡があります。

出羽　熊はセリ科のものは食べますね。

山本　はい。ただ今回食痕はそれほど見当たりません。何をしにきているのかよく分かりません。それが分かれば、それを重点に見られるんですが、実は何をしにきているのかよく分かっていません。

出羽　今回は若い熊ですね。

山本　はい。去年三角山で親子が二組確認されています。そのうちのどちらかが独立してうろうろしている可能性があります。

③　２０２０年度ササカタクリ調査報告

今年度のササカタクリ調査は５月１４日（木）に実施されました。
まとめについては添付資料２をご覧ください。

出羽　グラフの中の緑や赤の点線はなんですか。

中村　これは期間を通した平均値の推移です。

山本　右肩上がり傾向ですね。

中村　プロット７１番はエゾエンゴサクが増えるとカタクリが減っているような印象ですが、７２番はあまりそういう傾向は見られません。

出羽　この調査の目的ともう少し細かい調査が必要かもしれません。一つはササが多いところと少ないところの比較ですね。

尾崎　資料の最後に適用が書いてあります。この調査は大体５月１４日ぐらいに行っていましたが、エゾエンゴサクは有花と無花を区別せずにカウントした時期もあります。それも適用に記載した方がいいと思います。それと、この折れ線グラフについて、クマの時期は調査をしていないことと調査の時期が遅かった時もあった。調査を開始してから１０年ぐらい経っているので、この分析も徐々にやって行った方がいいと思います。このデータが意味を持っているのかどうかも含めて考察する必要があると思います。

山本　参考までに。このプロットは野の花グループが我々以前からずっとやっていた場所のそばです。ササが押し寄せてきていた最前線を選んだんです。当時の想定ではササがどんどん来て、カタクリが壊滅するんじゃないかという場所を選んだつもりだったんですが、ちょうど林縁だったせいなのか、ご覧のように緑の線のササの数はほとんど安定していて、思惑とは違ったプロットの特徴が見えているのかもしれません。ササが比較的安定していて、その中でカタクリやエゾエンゴサクがどのように推移していくのかということが、年によってでこぼこしますが、だんだん見えてくるのではないかと思います。

④ 突哨山の名称について

前回（5 月 25 日第１３回総会）突哨山の名称を「突哨山自然公園」などとしてはどうか、との意見が出されました。これについて公園みどり課の見解としては、正式名称を変えることはできないが、愛称として新たな呼称をつけることは可能。しかし愛称の設定については協議会だけではなく、より広く意見を集約するべき。また比布町との連携も必要。

「あさひかわの公園」（平成２１年１０月発行）パンフレットについて
これに突哨山は掲載されていません。発行元の旭川市公園緑地協会に問い合わせたところ、発行当時に公園緑地協会が管理していた公園のみを掲載しているとのこと。もりねっと（当時 NPO 法人森林再生ネットワーク北海道）が指定管理者となったのは平成２２年度（２０１０年度）からです。同様のパンフレットの再発行については、現在、旭川市の公園管理は４つの団体（公益財団法人旭川市公園緑地協会・株式会社旭川公園管理センター・グリーンテックス株式会社・NPO 法人もりねっと北海道）が行っており、それぞれが按分して費用を負担することが予想されます。しかし過去の指定管理者連絡協議会において１社が同様のパンフレットは必要ないと発言していることから、今のところ再発行の可能性は低い、とのことでした。

添付資料３

笹川　公園名としての突哨山という名称を変えることはできなくはないですが、

山の名前としての突哨山という名称は市で決められることではありません。例えば北彩都ガーデンは複数の公園にまたがった場所になっていて、愛称として北彩都ガーデンという名称になりました。公園の名称を変えるということになると広く市民の意見を取り入れなければなりませんが、まずは、なぜこのタイミングで名前を変える必要があるのかも重要です。私の個人的な見解では公園として１０年以上突哨山という名称なのでかなり浸透していると思います。これから名称を変えるというのは市民の理解を得ることが難しいと思います。また、名前を変えることで何をどう PR したいのかということも整理は必要なのかなと思います。

出羽　もともと男山で知られていました。突哨山という名前はほとんど知られていなかった。黒川さんは牧場山と呼んでいましたね。

黒川　通称、牧場山と呼んでしました。子供の頃は突哨山という名前は知りませんでした。

出羽　突哨山という山の名前は国土地理院の地図に載っていて、これを変えるのは無理だと思います。そうではなく男山自然公園に対応するように何か名前を考他方がいいのではないか、というのが前回工藤さんがおっしゃったことです。これはなかなかイメージが湧いて面白いんですが。里山か裏山かという話もあります。これは検討していい問題だと思います。突哨山自然公園という言い方もあるでしょうし、ゴルフ場問題の時は緑の岬という言い方もしていました。何か内容を訴えるような名称愛称を考えるのもいいかもしれません。

工藤（和）　私がイメージしているのは、突哨山の中にめぐっている道というのは素晴らしい道だと思います。全体的な部分をどうこうというのではなく、そういう道があるということが知られることが重要で、例えば、突哨山自然遊歩道とか、その道に対して名称がつけばいいのかもしれません。そういう道があるなら行ってみようかなというのが PR としてはいいのかなと思います。ただ漠然と自然公園と言っても、すごく広い場所で遊ぶというようなイメージになったりしかねないので、山の中に自然の即した道が管理されて歩くことができて、しかもそんなに険しい道ではない、ということが表現できればいいのかなと思います。

出羽　ぴぴの路だとか、それぞれ名前はつけてあります。

工藤（和）　それが包括的に全部をわかりやすく伝えられたらいいと思います。

出羽　この提案は面白いと思いますが、どんなふうにこれを検討してまとめていけばいいのか。

尾崎　その前にいいでしょうか。公園であれば市の法令と条例があって、突哨山の場合は平成１２年の新聞報道を見ますと里山と書いています。堀川さんと石川さんの写真が載って、里山を守ると書いています。突哨山運営協議会では平成２３年９月に出羽さんの方から、突哨山規約ではなく突哨山総合公園規約というふうに変えたらどうかという話も出ていました。愛称がどうのということもあるかもしれませんが、突哨山は、男山自然公園、村上山公園、ここだけ突哨山。どうも分からない。先日、道新で熊出没の記

事が出た時には都市緑地突哨山となっていましたが、閉鎖が解除になった時にはただ突哨山となっていました。突哨山が公園なのであれば、公園みどり課が管理しているのであれば、このパンプレットに載せていただきたいです。

出羽　突哨山は都市緑地として載っています。風致公園や都市林などいろいろな区分けがあります。突哨山は都市緑地として載っています。嵐山や常盤公園のように大きく取り扱っていない。４００ぐらいある公園のうちの都市緑地として載っています。それでこの名称なんですが、どのように進めたらいいでしょうか。

中村　例えば遊歩道の名称を私たちが使う名称としてガイドマップに載せるなどは問題がないんじゃないでしょうか。

出羽　それが内容を含んで定着していくかが問題ですが、市民から募集するという方法もあるかもしれないですね。比布町にもまたがっているし。

寺島　もう少し広く総合的に検討すべきだと思います。今ジオパークの構想があり、ジオサイトを細かく設定しながらということになると、突哨山の先端の石灰岩と言うのか、男山の石灰岩と言うのか、そういうことも出てくるので。いろいろなガイドブックにも載っているし、そういうものを一度整理した方がいいと思います。

出羽　これはもう少し検討してからですね。今回のも議事録として記録して、これを積み重ねていきたいと思います。

山本　私たちの中でも歩道の呼称を統一した方がいいかもしれません。エリアも同じように統一した方がいいですが、その時は旭川側と比布側を含めた形で。旭川の人にとっては男山と突哨山の区別が非常に付きづらい。

寺島　地形学上の呼称があったり、いろいろな呼び名があるので作業班を作って調べるのもいいかもしれません。

笹川　何をＰＲしたいのか、どういう利用を促したいのかということが明確になっていないと、誰にＰＲしたいのかがはっきりしなくなると思います。おそらく男山自然公園のように気軽にお花畑が見られる場所と突哨山の散策路はイメージが違うと思います。山に慣れている人には軽く散策できますが、人によっては山道だなあと思う人も結構いるので。

出羽　前にルートという言い方と、道という言い方と両方使って名前を検討したんです。その辺がベースになっていくかもしれません。

舟橋　突哨山は風致公園ではないんですか。都市緑地となっていますよね。

中村　都市緑地も公園の中に入ります。

出羽　前は公園の区分の中の都市林という区分けになっていたこともありました。いろいろな公園がある中の都市緑地という公園になっています。

山本　これは旭川市の条例で都市緑地、突哨山と決まっているんですね。この名称を変えるとなると議会を経由して条例を変えなければならないんですね。

笹川　そうですね。

出羽　環境部の所管になるか、土木部の所管になるかということもあったんですね。

舟橋　何年か前にもこれとは違うパンフレットに突哨山が載っていなくて、公園みどり課の方に、今後作ることがあれば載せてくださいとお願いしたことがあります。その後、新しいパンフレットは作っていないんですよね。

中村　作っていません。

出羽　ということで、名称を検討するグループを作りましょうか。それと、今日の議題には載っていませんが、活動誌はだいぶ進んでいます。これも担当者で集まって進めなければいないということを報告しておきます。名称の検討グループを作る方向で考えたいと思います。

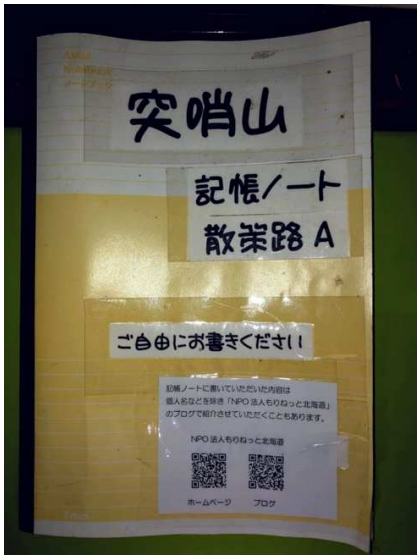
⑤ 入山記帳ノート記載内容の公開について

前回（5 月 25 日第１３回総会）入山記帳ノートに記載されているコメントをホームページやブログで紹介してはどうか、との意見がありました。
現在、ノートの表紙に以下の案内を付けています。今後、もりねっとのホームページまたはブログにて記載コメントを紹介していきたいと思います。

記帳ノートに書いていただいた内容は
個人名などを除き「NPO 法人もりねっと北海道」
のブログで紹介させていただくこともあります。

NPO 法人もりねっと北海道

ホームページ　　ブログ



澤田　ぴぴの路入り口のノートにも貼っていますか。

中村　念のため比布町役場に確認してから貼ろうと思っています。

出羽　それでは比布町役場に確認した上で貼ってください。

⑥ 道道鷹栖東鷹栖比布線工事について

２０１９年度第３回協議会（２０２０年４月１３日）での協議を経て「道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書Ⅱ」（２０２０年４月２３日付）を比布町に対し提出いたしました。これに対し比布町より「道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書Ⅱの回答」（２０２０年７月１日付）をいただきました。さらに比布町ではこれに対する回答が欲しいとのことです。

添付資料４

尾崎　カタクリなんですが、比布トンネルの時は神楽山に移植して再移植した結果、半分ぐらいに数が減りました。その後回復しているようです。カタクリの寿命は４０年ぐらいと言われていますが、新しい鱗茎ができなければカタクリが出ないようです。その辺が今までの資料に書いていなかった。
オオハンゴンソウの除去作業の時にミズバショウを踏むなと言われました。しかしミズバショウは根がたくさんあって深く潜っています。掘ってみなさんに見せました。表面に浮いていますが中には何十本も太い根があって少々踏みつけても問題ないんです。こういうことからカタクリも十分に配慮してやっていただきたいです。

出羽　カタクリの個体を掘って移植するのではなく、３０センチの深さで土ごと移植するとなっています。ですから他の植物も一緒に移植されることになります。しかも遠くに移すわけじゃなく近くの使われなくなった町道に移すわけですから。これは寺島さんの案ですが、そういう形がいいだろうということになりました。
他に何かありますか。
側溝の斜路とノスリの問題はもう少しやりとりが必要だと思います。基本的には緑地の連続性をベースに考えて欲しいということです。これで問題なければ比布町に回答を提出します。

寺島　ノスリが騒音に慣れるとか慣れないとかは、科学的な根拠がないことですね。

⑦ 突哨山での研究調査活動

・ミミズの捕獲調査
東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系　奥崎穣氏
北海道各地でミミズ類の群集構成を明らかにして，ミミズ食オサムシの地理的分布を説明する。

・昆虫類捕獲調査
東京大学北海道演習林　福井大氏
昆虫食であるコウモリ類の餌資源量を把握するために、森林の昆虫類全般を捕獲する。

添付資料５

出羽　福井氏による突哨山での調査はなくなりました。様々な環境の８カ所で調査をするのでまとまった場所にしたかったんです。突哨山と嵐山が候補だったんですが、嵐山のみで調査をすることになりました。
以前は研究調査については市に連絡するだけでした。運営協議会で内容を検討するというのは新しい方式です。だんだんいろいろな研究者が利用するようになってきたという経過があります。本来は協議会で話し合うべき

なんですが、時間的な問題があり役員会で検討し、協議会で事後承認という形をとっています。

尾崎　これは正式な申請書なんでしょうか。これは公園みどり課で認めているんですか。というのはここに書かれている調査場所なんですがすごくいい名前を使っています。突哨山公園と書かれています。これは訂正などせず市は受けているんですか。

笹川　申請者が書いてきたものなので。

中村　公園での採集調査申請書の様式は決まっていないそうです。

出羽　今年は教育大旭川校の学生がカタクリの盗蜜が結実にどういう影響を与えるかの調査をするということでした。指導教官がコロナの影響で京都に行ったまま戻って来られなくなったんです。私と中村さんで調査区を設定するところまで手伝ったんですが、その後どうなったのか。
今後、突哨山の調査結果についてお話をしてもらうというのいもいいんじゃないかと思います。

２．連絡事項

今後の予定

・第２回協議会　９月　　昨年は９月１７日（火）

出羽　他に何かありませんか。
武井さん何か感想はありますか。

武井　名称の検討はやった方がいいんじゃないかと思いました。

出羽　他はよろしいでしょうか。
では次回の予定ですが、保健所の方が部屋も駐車場も広いので次回から保健所でやってはと笹川さんから提案がありました。

笹川　今のところ９月２８日は空いているようです。

出羽　では次回の協議会は９月２８日月曜日１８時半から保健所で行うことでよろしいでしょうか。

全員　意義なし。

中村　現地検討会の日程はどうしますか。

出羽　次回の協議会の後にしてはどうか。

中村　では次回の協議会で日程を検討することにしましょう。

以上